

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



令和2年度 事業報告書



ふじのくに女性医師支援センター

目次

1 ご挨拶 1

山内 克哉 浜松医科大学附属病院リハビリテーション科 病院教授
谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター 特任講師

2 事業について 3

- ・ 活動概要
- ・ 取り組み
- ・ 構成メンバー
- ・ 協議会

3 実績報告 5

- ・ 成 果
 - ・ 相談事業について
 - ・ プログラム作成・運用について
 - ・ 浜松医科大学との連携体制
 - ・ 県内医療機関との連携体制
- ・ 実施状況
 - ・ 啓発活動
 - ・ キャリア支援シンポジウム事前アンケート報告
 - ・ 学生支援
 - ・ 相談窓口の設置
 - ・ センターの活用
 - ・ マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

4 広報活動・情報発信 31

- ・ ホームページについて
- ・ パンフレットの配布
- ・ 全国ダイバーシティネットワーク組織 東海北陸ブロック会議
- ・ 講演会・シンポジウム等の参加

5 アクセス・発行について 34

ご挨拶



センター長挨拶

山内 克哉

浜松医科大学附属病院

リハビリテーション科 病院教授

女性医師にとっての共通の悩みとして、結婚や出産・育児と仕事の両立です。子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取り組みを積極的に実施することで、女性医師が更に活躍する仕組みを構築しています。

静岡県の医師不足は深刻であり、女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあります。浜松医科大学では、平成21年～25年にかけて「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として行い、平成25年から27年まで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として行われた後に、浜松医大女性医師支援センターが、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後の女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標ですので、出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内のどのような病院がどのような条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態や給与などの情報を集積するために、センターでは谷口医師を中心に県内病院を訪問し、大きな成果を挙げています。コロナ禍で本年度は、病院訪問が限定されていましたが、コロナの収束とともに県内病院への訪問も再開予定です。病院訪問時には積極的な情報交換を行いたいと思いますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

喜ばしい事に、ふじのくに女性医師支援センターへの相談件数は年々増加し、県外からの就業相談も増えてきました。相談内容は、病院の勤務形態や専門医の取得、知識・手技の取得や研究の継続といった仕事面の事や、育児面（子供の預け先、病児保育、マタニティ白衣、母乳育児の継続、子供の教育相談など）と多岐に渡る相談があります。同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところです。対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなセンターを理想としています。皆様からの要望もお待ちしておりますので、是非お気軽にご利用下さい。

専任医師挨拶



谷口 千津子

浜松医科大学医学部附属病院

女性医師支援センター 特任講師

男女共同参画とは、男女が社会的にも、家庭内においても互いに協力し意欲に応じて活躍できる場が確保され、一人ひとりの豊かな人生の実現を目指すものとして広く認識されてきています。医療の世界でも女性医師の増加がみられ、育児や家庭生活のすべてが女性に任されるのではなく、男女が平等に家庭と仕事の両立が出来る環境作りをしていくことが求められています。近年では子育てに積極的に参加する男性医師も増加し、女性医師と同様に家庭と仕事の両立について悩まれる方もいらっしゃいます。「ふじのくに女性医師支援センター」は一人でも多くの先生が家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてもキャリアを形成し、地域で活躍できるよう県内医療機関と連携して支援する事、また県外から静岡県での就業を希望する医師への情報提供を行い、静岡県の医師不足を解消するための一つの役割を担う事を目的としています。

本年度は特に新型コロナウイルス感染症予防対策下、仕事においても家庭生活においても影響を受けた方がいらっしゃったと思います。一方、「web」により仕事や学会参加、研修会などのキャリア形成にとってはプラスに働く変化もありました。当センターでも毎年開催しているシンポジウムや講演会の開催を Web 開催とすることで新たな可能性に気づくことができた1年でした。

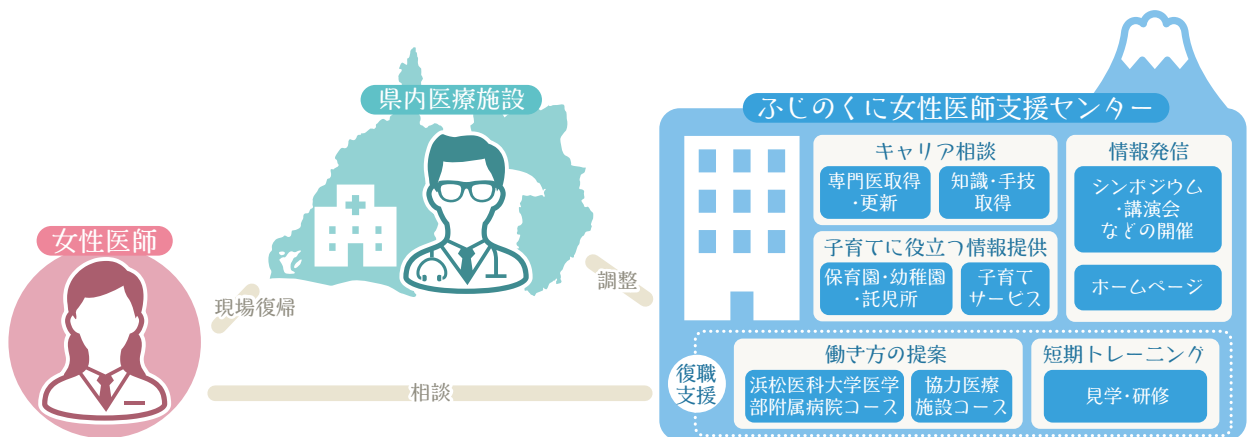
「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の公的医療機関や浜松医科大学の各診療講座の先生方のご協力をいただいて4年目の活動となりました。更なる目標を定め努力していきたいと思っております。

女性医師のキャリアを進めていく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも繋がっています。最終的には県内の女性医師同士がつながれるネットワークの中継組織でもありたいと考えています。皆さんに活用されることによりこの「ふじのくに女性医師支援センター」の活動も発展していくものと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

- 1) ワーキングコース ■浜松医科大学医学部附属病院コース ■協力医療施設コース
- 2) 短期トレーニングコース ■見学コース ■短期研修コース

③啓発活動

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

- ①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）
- ②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成 29 年 4 月 3 日（月）
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院（病院棟 5 階 503 号室）
組織体制	センター長 山内 克哉（浜松医科大学附属病院リハビリテーション科病院教授） コーディネーター（専任医師） 谷口 千津子（浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師） コーディネーター（専従事務員） 袴田 菜穂子（浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター）
時 間	午前 9 時から午後 5 時まで

女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会 長 奈良 雅文 静岡県健康福祉部参事 会長代理 山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委 員 中川 陽子 静岡県立静岡がんセンター検診センター医長 委 員 宮崎 文 静岡県立総合病院移行医療部成人先天性心疾患科医長 委 員 宮下 正 静岡県医師会理事 委 員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師

実績報告

5

成果（R3.3.12 現在）

①相談事業について（項目件数）

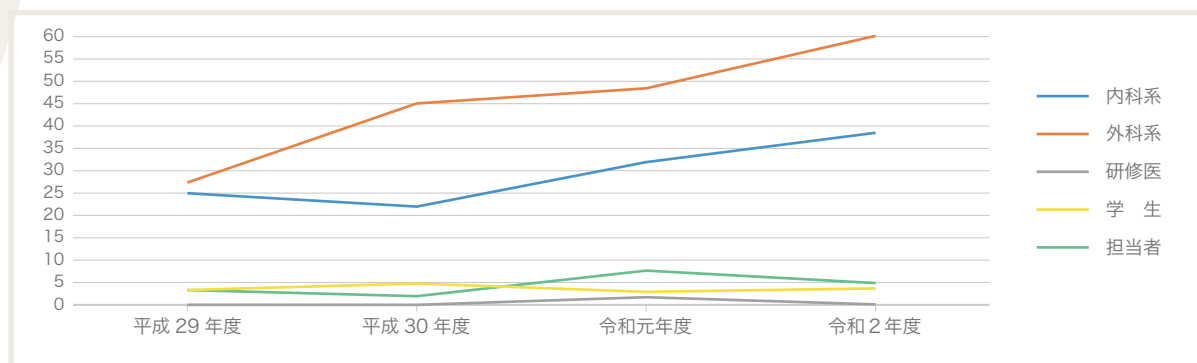
区分	実績件数
就業相談	204 件
キャリア形成相談	81 件
その他相談	21 名
就業・復職支援者数※	7 名

※復職（育児休暇後等）に向け、情報提供や相談対応等の支援を行った人数

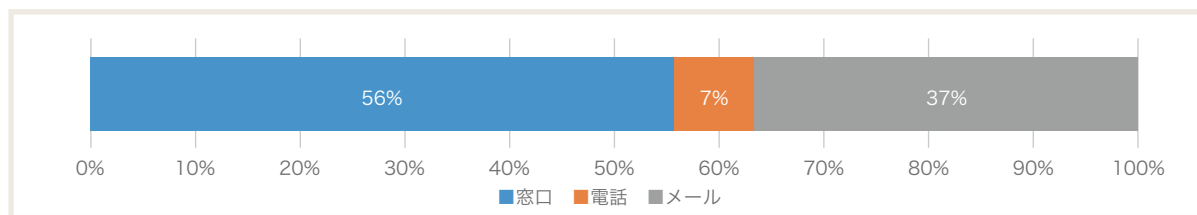
相談者数内訳：相談者数 42 名（医師 37 名、医学生 2 名、担当者等 3 名）、相談回数 114 回

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後 5 年未満	卒後 5 年～ 10 年未満	卒後 10 年～ 15 年未満	卒後 15 年以上		
医師	内科	1	2		1		
	精神科				1		
	小児科		1	1	1		
	外科			1	1		
	整形外科	1	2				
	皮膚科		1	1			
	眼科				2		
	産婦人科	2	5	6	4		
	放射線科						
	形成外科	1					
	小児外科				1		
	リハビリテーション科		1				
	病理診断科						
	救急科						
	研修医						
学生						2	
担当者等							3
合計 42 名		5	12	9	11	2	3

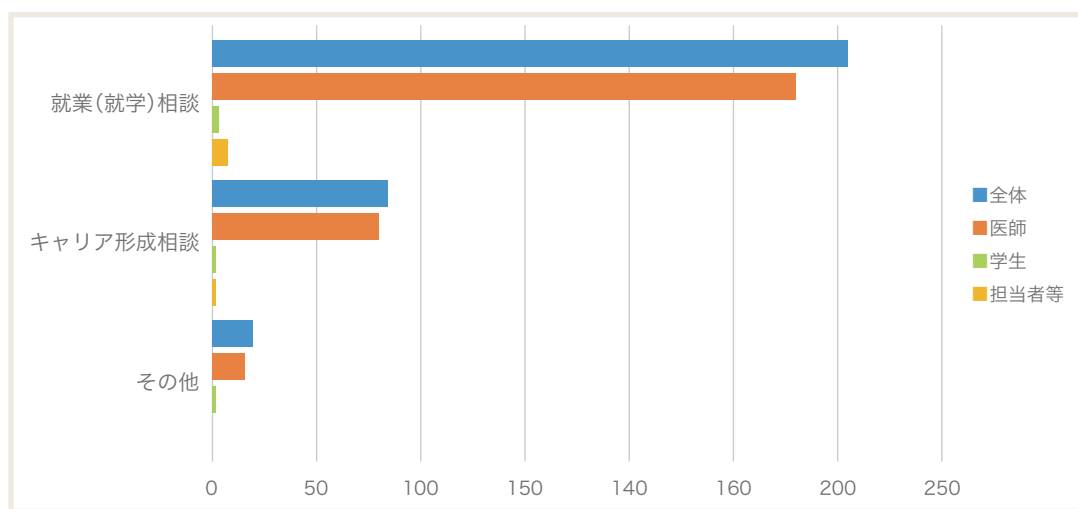
相談件数の推移



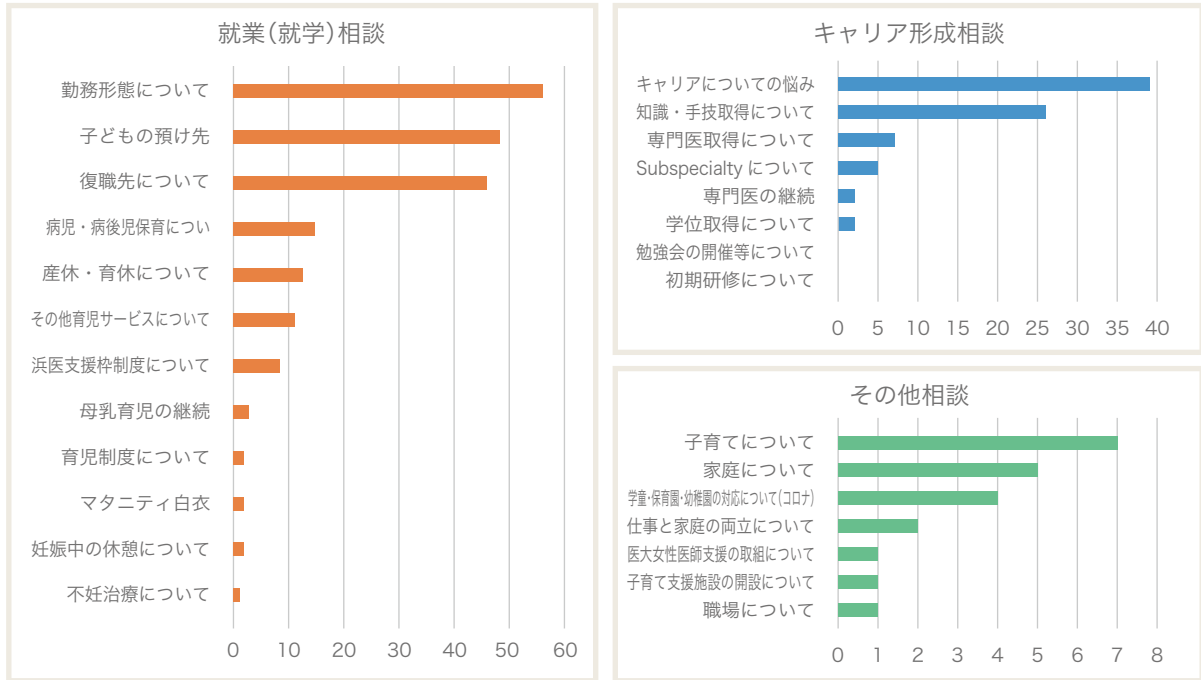
相談方法



相談項目別（※ 1 回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



相談内容内訳（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



②プログラム作成、運用について

区分	実績
プログラム運用	4名

各施設のプログラム運用について今年度は4名の方のプログラムを作成し復職支援を行いました。うち2名の方は浜松医科大学女性医師支援枠を利用して復職予定です。

令和2年度復職支援者一覧

診療科	人数
内科	2名
産婦人科	1名
皮膚科	1名
合計	4名

勤務先一覧（R3.3 現在の勤務先）

診療科	浜松医科大学	その他医療機関	県外へ転居
平成29年度	—	1名	1名
平成30年度	3名	2名	—
令和元年度	2名	2名	—
令和2年度	2名	2名	—
合計	7名	7名	1名

③県外からの就業相談と就業支援について

静岡県外より5名の医師より県内の就業相談がありました。

内1名は令和3年4月より東部の医療施設にて勤務予定です。

区分	人数
相談支援	5人
就業支援（相談支援の内）	1人

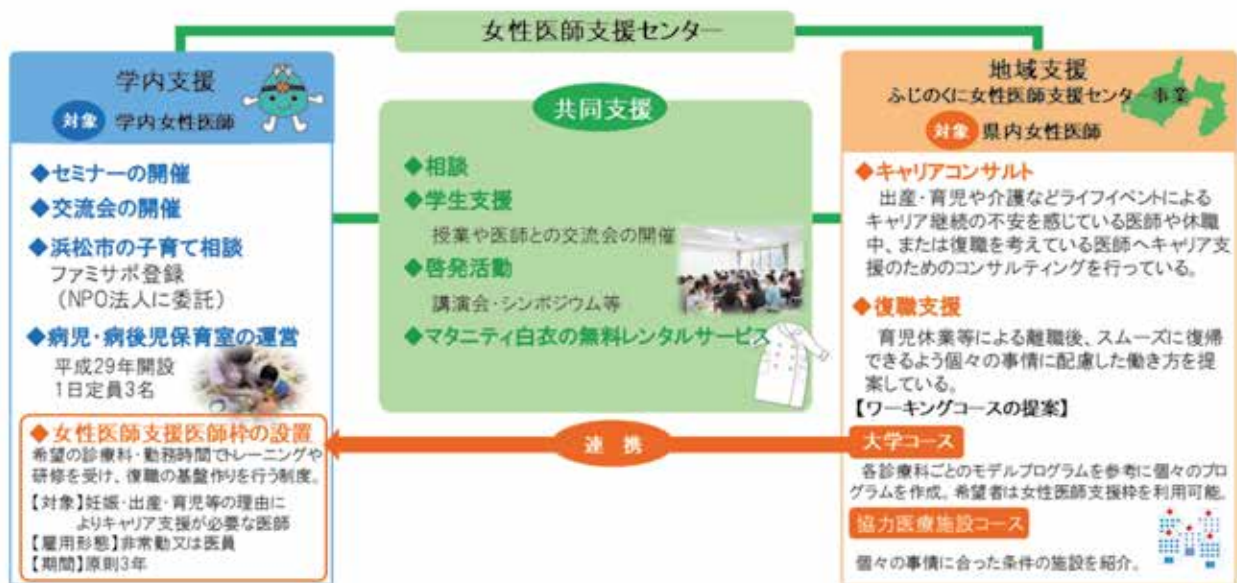
④大学内診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	その他医療機関
訪問数	15施設	7施設

浜松医科大学との連携体制

①大学診療科との連携

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県の委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では大学女性医師支援センターが主体となり、学内女性医師を対象に病児・病後児保育室の運営やイベントを行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



②診療科訪問・復職トレーニングモデルプログラムの作成依頼

15 診療科を訪問し、事業の報告と各医局に所属している女性医師の状況等を確認しました。現在、49 プログラムが浜松医科大学女性医師支援センターホームページより閲覧可能です。

※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学女性医師支援センターホームページ
<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/index.html>

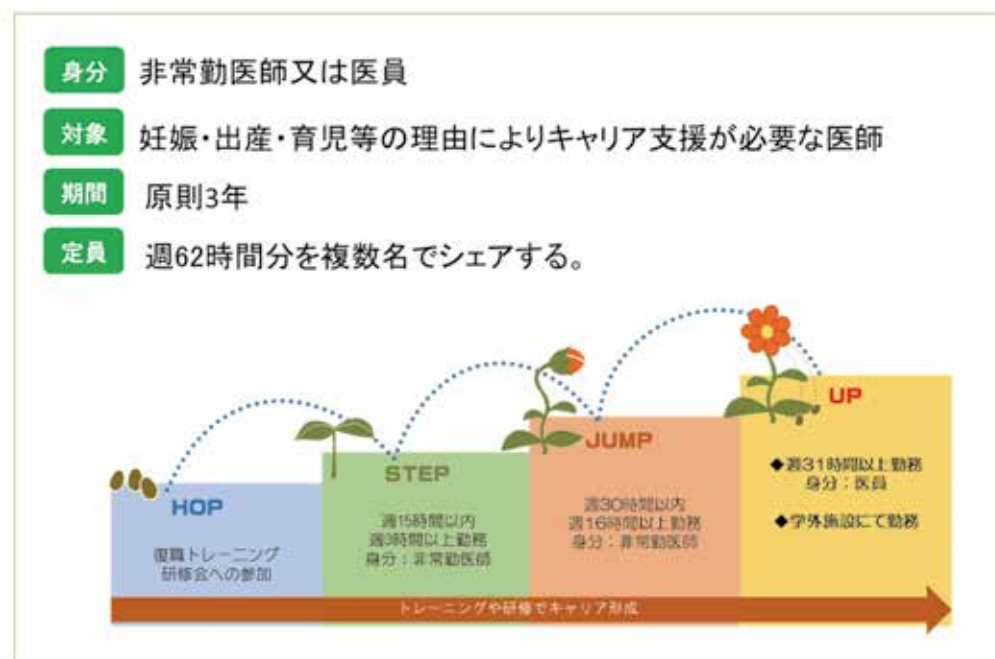


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	リハビリテーション科	1
第二内科	6	皮膚科	1	形成外科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	病理診断科	—
精神科	3	眼科	1	救急科	1
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	小児外科	—
第一外科	5	産婦人科	3	口腔外科	—
第二外科	—	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	麻酔科	1	プログラム合計	49

③浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師を含め、離職を避けるために、浜松医科大学女性医師支援センターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の3ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

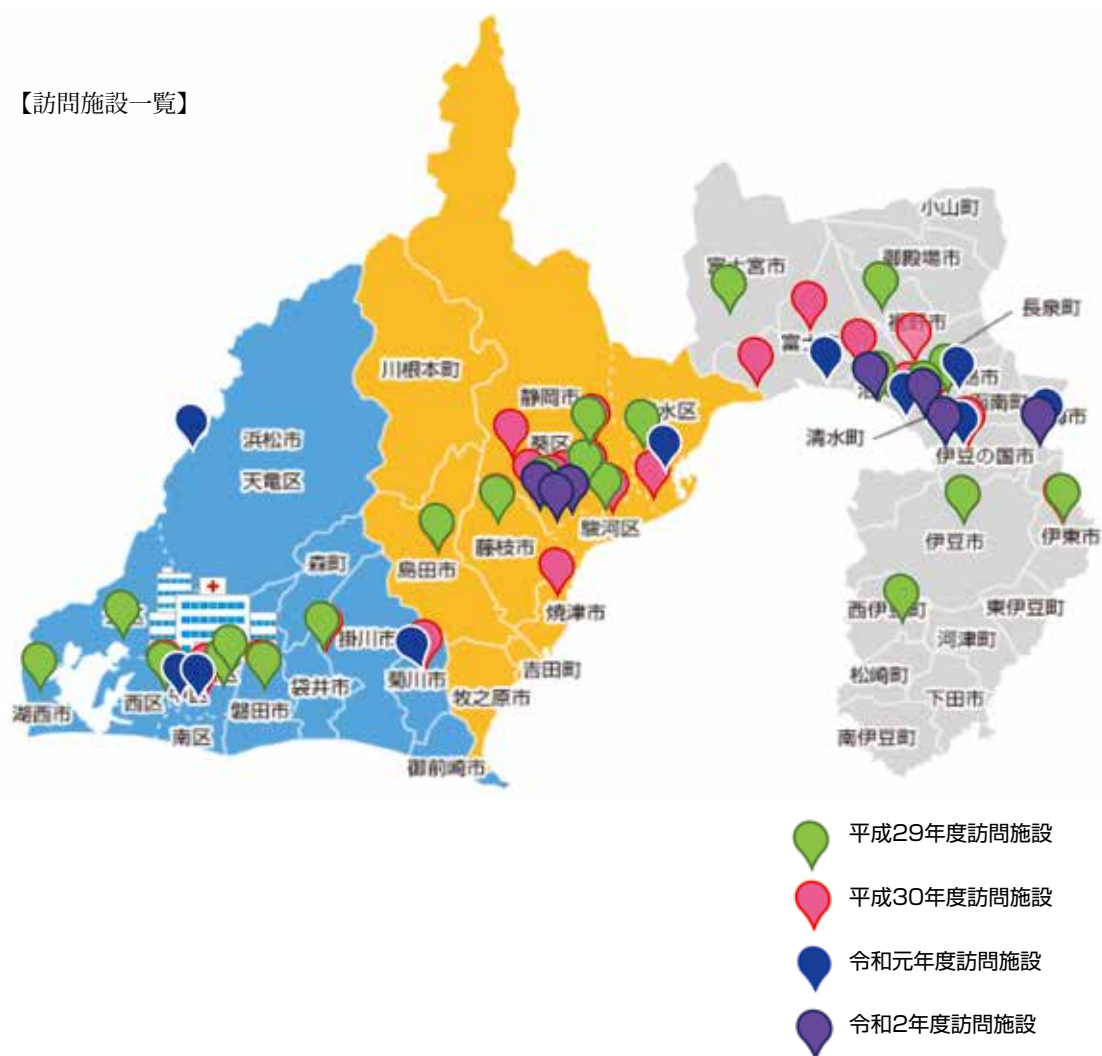
県内医療機関との連携体制

①訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は5施設、その他医療施設を2施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

- ①事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
- ②院内の女性医師数等の情報提供
- ③院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
- ④担当者がいない施設については配置依頼

【訪問施設一覧】



②復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
 - ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
 - ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録していること。
- また、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設であること。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

地域で検索（複数選択可）			
☐ 賀茂	☐ 下田市	☐ 河津町	☐ 松崎町
	☐ 東伊豆町	☐ 南伊豆町	☐ 西伊豆町
☐ 熱海伊東	☐ 熱海市	☐ 伊東市	
☐ 駿東田方	☐ 伊豆市	☐ 伊豆の国市	☐ 沼津市
	☐ 三島市	☐ 裾野市	☐ 函南町
	☐ 清水町	☐ 長泉町	☐ 御殿場市
	☐ 小山町		
☐ 富士	☐ 富士宮市	☐ 富士市	
☐ 静岡	☐ 静岡市清水区	☐ 静岡市葵区	☐ 静岡市駿河区
☐ 浜太橋原	☐ 浜松市	☐ 浜松市	☐ 浜松市
☐ 中東遠	☐ 浜松市	☐ 浜松市	☐ 浜松市
☐ 西部	☐ 浜松市	☐ 浜松市	☐ 浜松市

診療科で検索（複数選択可）		
内科系	☐ 消化器内科	☐ 腎臓内科
☐ 内科	☐ 内分泌・代謝内科	☐ 呼吸器内科
☐ 神経内科	☐ 循環器内科	☐ 血液内科
☐ 肝臓内科	☐ 精神科神経科	☐ 小児科
☐ 免疫・リウマチ内科	☐ 放射線科	☐ 病理診断科
☐ 皮膚科	☐ その他	
☐ 検診		
外科系		
☐ 外科		
☐ 乳癌外科		
☐ 脳神経外科		
☐ 眼科		
☐ 麻酔科蘇生科		
☐ リハビリテーション科		
☐ 緩和ケア科		

支援内容で検索（複数選択可）	
仕事と家庭の両立に配慮した就業環境	☐ 非常勤勤務制度
☐ 短時間常勤制度	
☐ フレックスタイム制	
☐ 診療科による家庭の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制	
☐ 当番の免除	☐ 夜間オンコール免除
☐ 院内保育園	☐ 提携（院外）保育園
☐ 育児保育	☐ 病後児保育
☐ ベビーシッター費用補助	☐ 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の復職復帰
☐ 育児短時間制度（期間有）	☐ 学童保育（常時開設）
☐ 学童保育（長期休暇時のみ開設）	☐ 育児休業取得条件有り
☐ 育児休業・介護休業中の給与を保障	☐ 不妊治療休暇
スムーズな臨床現場復帰に配慮した就業環境（生涯学習への配慮）	
☐ 女性医師支援部門設置	☐ 復帰前の短期トレーニング（見学会等）
☐ 学会・研究会参加への補助	☐ 図書館の整備
☐ 立席授業・インターネットアクセスの整備	

【復職支援協力医療施設一覧】(R3.3.12 現在)

◆公的医療機関等

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録	病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
伊東市民病院	○	○	○	JA 静岡厚生連清水厚生病院	○	○	○
国立病院機構静岡医療センター	○	○	○	市立島田市民病院	—	○	○
伊豆赤十字病院	○	○	○	藤枝市立総合病院	○	○	○
NTT 東日本伊豆病院	—	○	○	磐田市立総合病院	○	○	○
富士宮市立病院	○	○	○	中東遠総合医療センター	○	○	○
富士市立中央病院	○	○	○	浜松医療センター	○	○	○
静岡県立こころの医療センター	○	○	○	浜松赤十字病院	○	○	○
静岡県立こども病院	○	○	○	JA 静岡厚生連遠州病院	○	○	○
静岡赤十字病院	○	○	○	総合病院聖隷浜松病院	○	○	○
JA 静岡厚生連静岡厚生病院	○	○	○	総合病院聖隷三方原病院	○	○	○
下田メディカルセンター	○	○	—	静岡市立静岡病院	○	○	—
医療法人社団健育会西伊豆健育会病院	—	○	—	静岡市立清水病院	○	○	—
国際医療福祉大学熱海病院	○	○	—	静岡済生会総合病院	○	○	—
県立静岡がんセンター	○	○	—	清水駿府病院	○	○	—
沼津市立病院	○	○	—	焼津市立総合病院	—	○	—
裾野赤十字病院	○	○	—	市立聖隷袋井市民病院	—	○	—
伊豆医療福祉センター	—	○	—	市立御前崎総合病院	—	○	—
三島総合病院	—	○	—	菊川市立総合病院	○	○	—
沼津中央病院	○	○	—	公立森町病院	—	○	—
順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	—	浜松ろうさい病院	○	○	—
共立蒲原総合病院	○	○	—	国立病院機構天竜病院	○	—	—
鷹岡病院	—	○	—	国民健康保険佐久間病院	○	○	—
静岡県立総合病院	○	○	—	市立湖西病院	—	○	—

◆その他医療機関

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
熱海所記念病院	○	○	—
三島共立病院	—	○	○
池田病院	—	○	○
聖隷沼津病院	○	○	○
富士整形外科病院	○	○	—
医療法人清仁会日本平病院	—	○	○
静岡徳洲会病院	—	○	○
十全記念病院	—	○	—

◆診療所

病院名	担当 医師	その他 担当者	ホームペ ージ登録
木村産科・婦人科	○	—	○
坂の上ファミリークリニック	—	○	○
浜松佐藤町診療所	○	○	○
やまなしクリニック	○	—	○
産婦人科クリニックさくら	○	—	○

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページ TOP → 復職支援情報 → 復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

医療施設名 (必須)	
ふりがな (必須)	
病院規模 (病床数) (必須)	
担当者メールアドレス (必須)	
担当者メールアドレス (確認) (必須)	
住所 (必須)	〒 - 半角で入力してください (住所自動入力)
連絡先 (電話番号) (必須)	
ご担当者名 (必須)	
貴院ホームページアドレス	http://
	☐ 内科系 ☐ 内科 ☐ 消化器内科 ☐ 腎臓内科 ☐ 神経内科 ☐ 内分泌・代謝内科 ☐ 呼吸器内科 ☐ 肝臓内科 ☐ 循環器内科 ☐ 血液内科 ☐ 免疫・リウマチ内科 ☐ 精神科神経科 ☐ 小児科

実施状況

啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会を開催しました。

◀ キャリア支援シンポジウム ～withコロナにおけるキャリアパスと働き方～ ▶

会 期	令和3年1月29日（金）
開催方法	オンライン
参 加 者	医師 24 名 その他 8 名

【概要】

今回は新型コロナウイルス感染症対策も考慮し、WEB開催といたしました。昨年度来、日常業務あるいは家庭において様々な影響を受けている新型コロナウイルス感染症予防対策管理下、県内の医療機関での対応や若手のキャリア形成はどの様に行われているのか、今後この経験をどのように生かしていけばよいのかといった情報共有を軸としたプログラムとなりました。

話題提供として県医師会副理事の小林利彦先生から本年度の県医師会が行っている活動について報告していただきました。研修医指導として行っている「屋根瓦塾」が本年度はハイブリットの臨床研修セミナーという形式にする事で、一つの医療機関では指導すること

が難しいテーマの座学を配信という形で専門家に講習していただき、多くの先生が参加でき、東西に長い静岡県での新たな可能性が見いだせた事、1月末から新たに始まった「静岡県医師バンク」について解説がありました。

「with コロナ時代のワークライフバランス」をテーマに行った事前アンケート報告（別途 HP に公開予定）ののち座談会となりました。今回コメンテーターとしてご協力いただいたのは、沼津市立病院皮膚科の秦まき先生、藤枝市立病院 リウマチ科 金本素子先生、聖隷浜松病院 人材育成センター 渡邊卓哉先生の3名です。各施設で本年度行った若手指導の在り方や現在の病院でのウイルス感染症に対する対応などご苦労の数々をご紹介いただきました。

日本医師会生協静岡 主催 (CCJ, FJD)

withコロナにおける
キャリアパスと働き方 2021
キャリア支援シンポジウム

コロナ禍において変化した私たちの働き方・キャリア形成・ワークライフバランスなどについて事前アンケート調査を軸に東・中・西で活躍される指導医の先生方を交えて議論していきます。日常生活・仕事や家庭などで課題のある生活の中に新しい視点・工夫を促す時間です。ぜひご参加ください。

日時 1/29 (金)
17:00~18:00

参加無料（要申込み）
本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、ZOOMを利用したオンライン開催とさせていただきます。事前の申込みが必要となりますので1/22(水)までにお申し込みください。
※ZOOMはパソコン等を使い、インターネットを介して参加ができるアプリです。参加のための機器にご用意ください。ご不安がある方は申込み時にお知らせいただければ事務局にご案内いたします。

申込方法
参加申し込みの点
右下のQRコードを読み込んで頂き申込フォームよりお申し込みください。
申し込み申し込みの点
①氏名 ②所属 ③職階 ④メールアドレス ⑤お電話番号を
明記の上、下記のアドレス宛にお送りください。
info@fukushima-med.or.jp

コメンテーター
秦 まき 先生
沼津市立病院 皮膚科 部長
金本 素子 先生
藤枝市立総合病院 リウマチ科 科長
渡邊 卓哉 先生
聖隷浜松病院 人材育成センター センター長
臨床研修部 部長
院長補佐

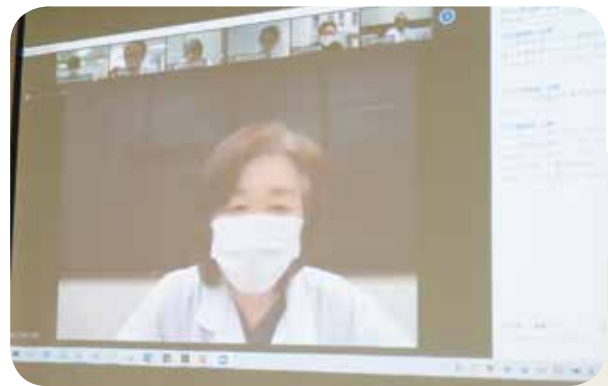
主催 ふじのくに女性医師支援センター事務局
静岡県医師会 静岡県医師会女性医師支援センター内
TEL: 053-835-2299 E-mail: info@fukushima-med.or.jp
共催 静岡県医師会・ふじのくに女性医師支援センター・浜松医科大学女性医師支援センター

沼津市立病院では感染症の診療は研修医には行わない方針ではありましたが、多科連携という形で研修指導を行っていました。

藤枝市立病院では研修医も事前に感染症対策の研修を受け、実際に感染症患者への診療も行い、初期研修前の病院案内が対面で行えない分 web での病院案内やオリエンテーションを行ったことで前年度を超えて定員以上の希望者があったとプラスの面もご紹介いただきました。

聖隷浜松病院では卒業すぐの初期研修医が2週間業務に入れなかったという苦いお話から、当初研修医を外して緊急業務を組み立てていたものの、研修医の先生たちにアンケート調査を行いコロナウイルス感染症に関わる現場に出る事を希望する先生が多数おられ、実際に現場に研修に出るようになった例をお話いただき、各施設が制限された中でより良い研修が行えるよう考えていらっしゃる現状を知ることができました。

家庭と仕事の両立という意味では事前アンケート調査では家庭にいる時間が男女とも増加したという回答が多かったにもかかわらず、業務時間は変わらないという結果が出ており、これからはWEBを上手に利用することでキャリア形成やワークライフバランスを考えた仕事の在り方を考えていく必要があるのかという気づきがありました。1時間という短い時間のシンポジウムとなり、もっとお話を伺いたいという名残惜しい気持ちで会を終了することができました。初めてのweb開催のため手際も多く反省が多々ありましたが、ご参加いただいた皆様には改めまして感謝申し上げます。



キャリア支援シンポジウム事前アンケート

◀ with コロナにおけるキャリアパスと働き方について ▶

対象：医師 回答数：129名

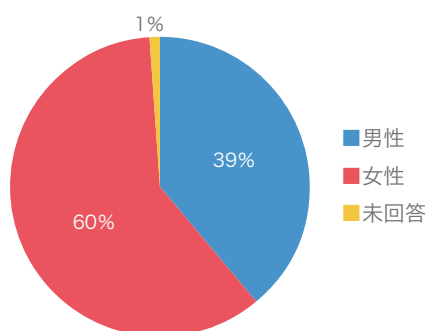
はじめに

本年度は新型コロナウイルス感染症によって仕事と家庭、双方に大きな影響を受けました。

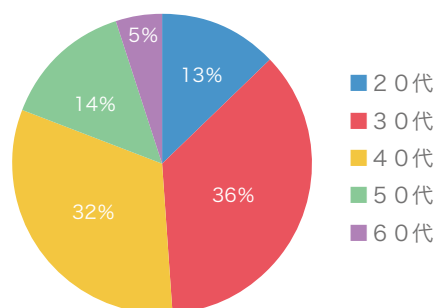
そのような状況の中、今後しばらく続くであろう、この感染症に対応した時期を「新型コロナ時代」と称し、この時代におけるワークライフバランスの現状、日常臨床と家庭生活の両立についてアンケート調査を行いました。この調査結果から新たな働き方の工夫や今後のキャリア形成に生かせるヒントが見いだせれば幸いです。

1. ご自身について

① 性別



② 年代



③ 診療科

【内科系】

内科	36
精神科神経科	11
小児科（新生児科含む）	7
皮膚科	10
放射線科	2
病理診断科	2

【その他】

臨床検査	2
研修医	9
未定	1
未回答	4

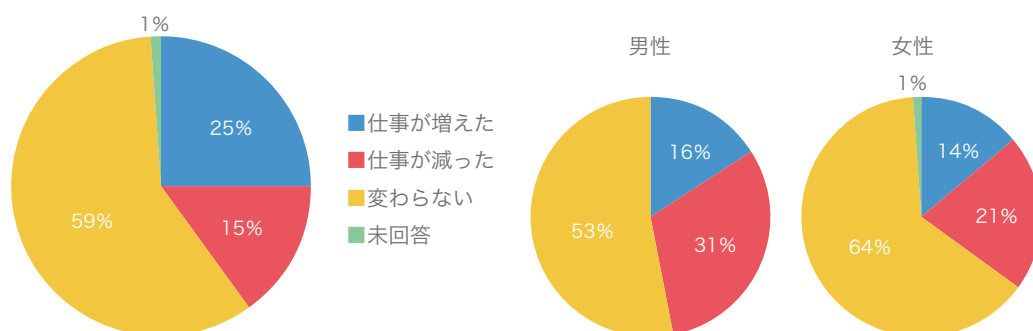
【外科系】

外科（小児外科含む）	36
脳神経外科	11
整形外科（手外科含む）	7
眼科	10
耳鼻咽喉科	2
産婦人科	2
麻酔科	
形成外科	
リハビリテーション科	
救急科	
緩和医療科	

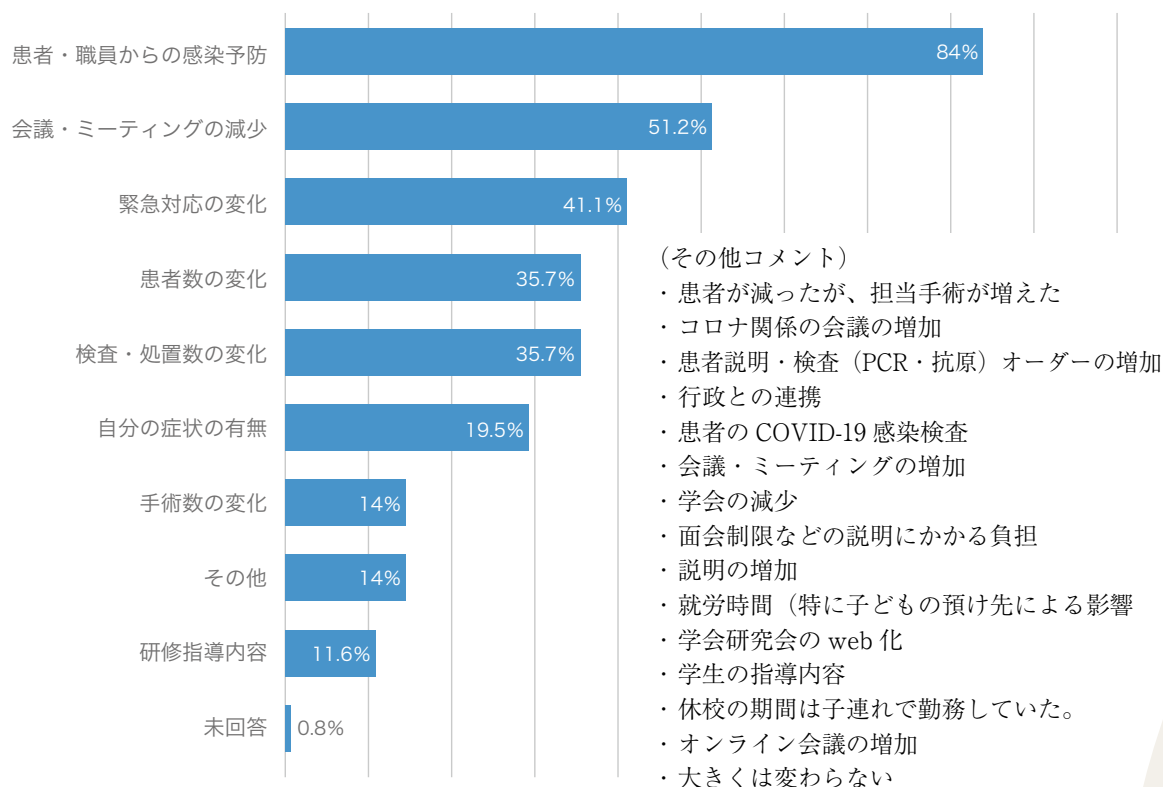
2. ワークについて（コロナウイルス感染症対策下の診療について）

① 仕事の変化はありましたか

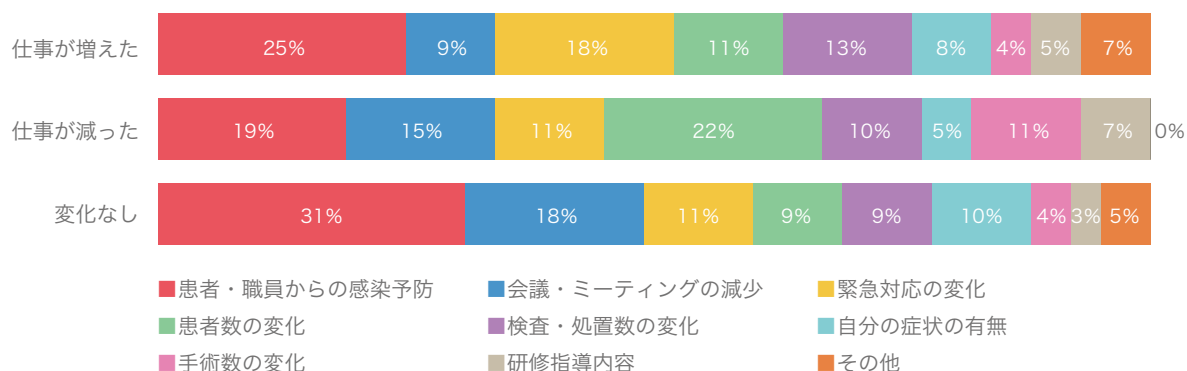
■仕事量（男女別）



② 勤務において影響を与えた項目を選んでください。（複数回答可）



勤務において影響を与えた項目（仕事量別）

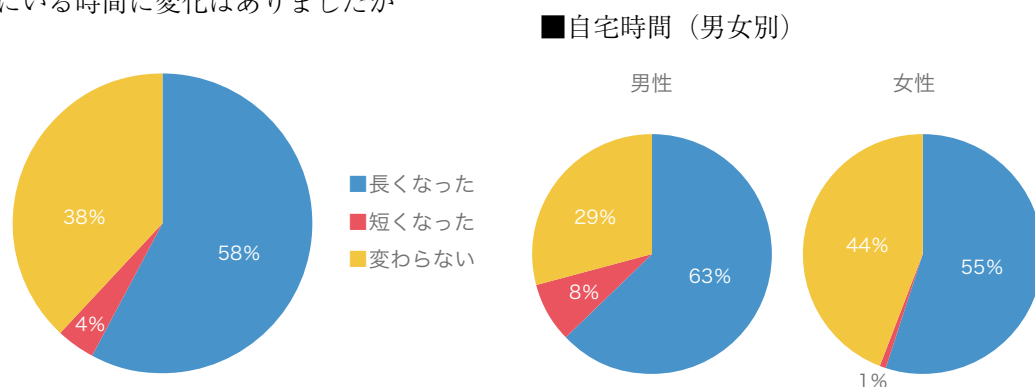


《ワークについての考察》

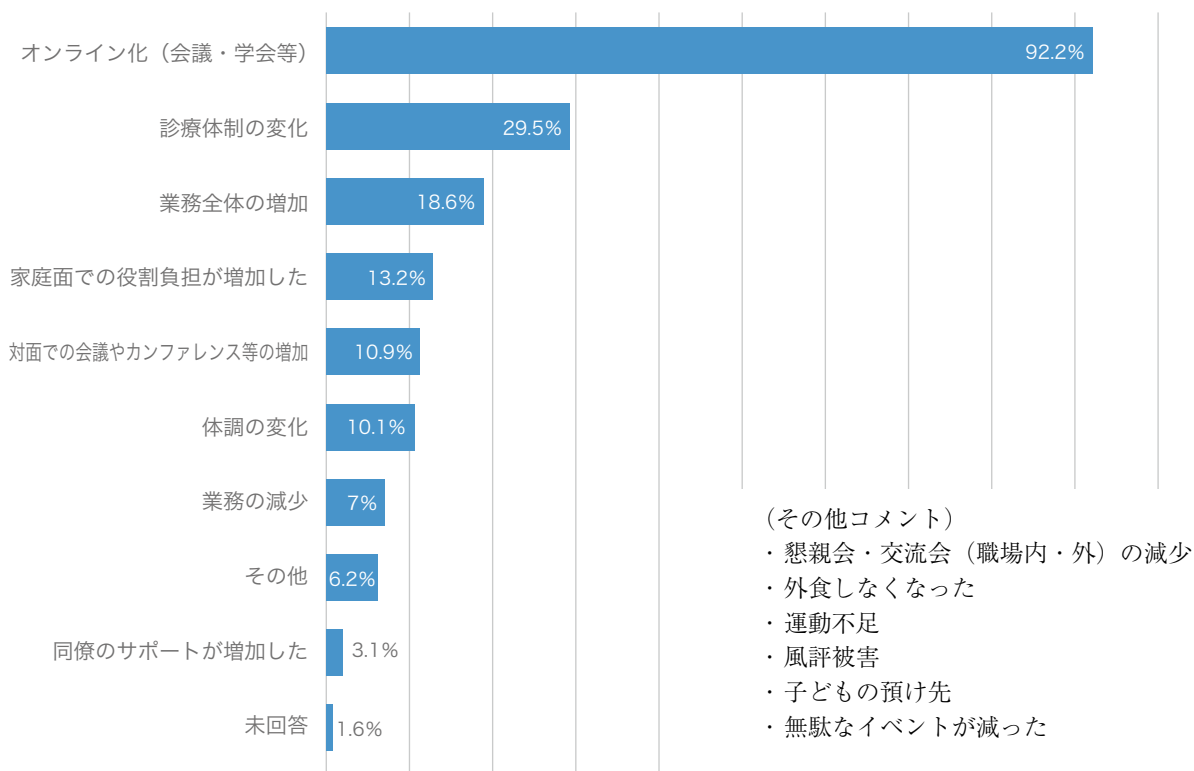
- ・半数以上の医師が仕事量自体の変化はないと回答しているものの感染予防に関する業務の増加を感じている医師の割合が最も多い。
- ・業務内容が増加したと回答した医師の最も影響があった業務内容は感染予防、検査、緊急対応であった。
- ・仕事量減少の要因は会議の減少、患者の減少、手術数の減少という従来の業務の減少であるが、これに対し仕事量は変化しないと回答している医師は感染予防業務、特に特に面会制限などの予防対策のため患者・家族への説明の時間の増加も回答している。業務内容の変化が多く医師でみられたと考えられる。一方、自由記載ではオンライン会議の増加を指摘している医師が増加していた。
- ・男女別に結果を見ると仕事量の増加を意識している医師は男性で31%、女性で21%であったが、減少したと回答した割合は男女差は見られなかった。

3. ライフについて

① 自宅にいる時間に変化はありましたか



② ライフにおいて影響を与えた項目を選んでください。（複数回答可）



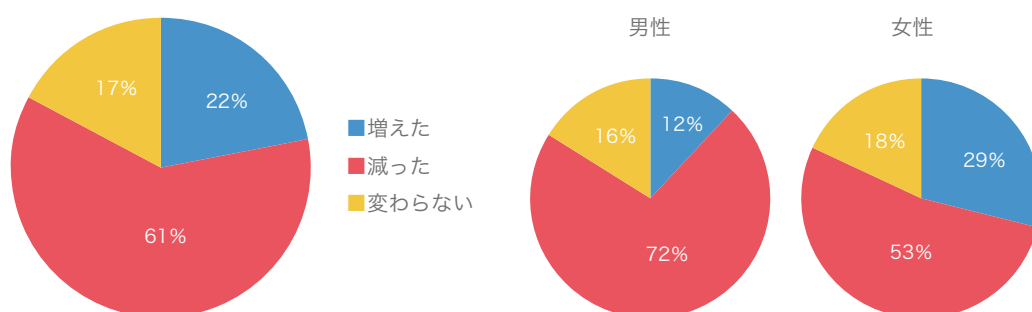
《ライフについての考察》

- ・自宅にいる時間が増加したと回答したのは全体の6割を占め、学会や会議のオンライン化、診療体制の変化の影響が大きい。
- ・仕事量が増加したと回答している医師でも4割は自宅にいる時間が増加したと回答している。
- ・男女別では男性のほうが自宅にいる時間が長くなったと回答している割合が高く業務内容の変化、オンライン化が影響していることが伺える。
- ・従来自宅外で行っていた業務や研修が自宅でできる環境に変化していったと推測される。

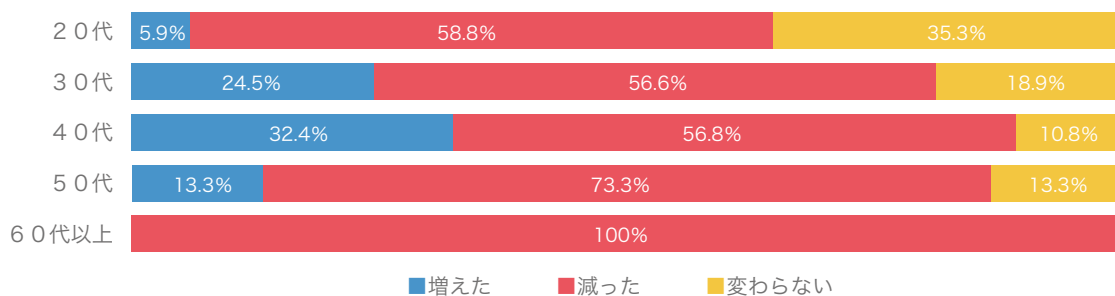
4. キャリアについて

① 本年度の学会や研究会等の参加状況について教えてください。

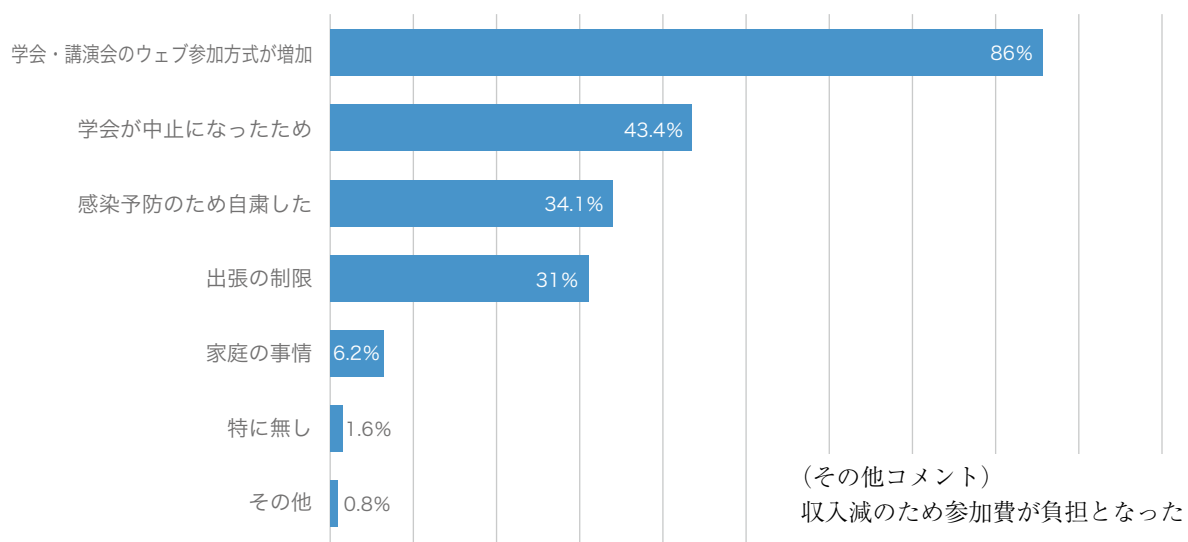
■本年度の学会や研究会等の参加状況（男女別）



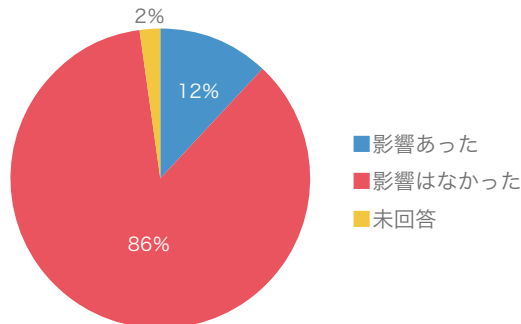
■本年度の学会や研究会等の参加状況（年代別）



② 参加状況に影響を与えた項目を選んでください。（複数回答可）



③ 専門資格の取得・維持に関して影響がありましたか。



④ 影響があった方はどのような影響がありましたか。

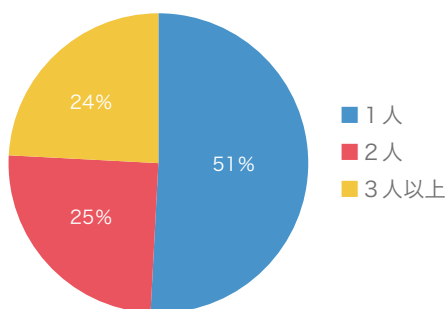
- 【良い点】
- ・学会への参加と点数の獲得
 - ・Web 開催で単位を取得しやすくなった
 - ・病歴要約の提出期限が延長した
 - ・オンライン化で単位取得は容易になった
- 【悪い点】
- ・教育セミナーや現地開催の専門医試験を受けられなかった
 - ・資格試験（認定医）を受けることをやめた
 - ・専門医資格更新の延長期限などが明確でなく、どうすれば
 - ・見学に行くタイミングが難しかった
 - ・総合内科専門医試験が延期された
 - ・総合内科専門医試験の日程の変更があった
 - ・開催予定であった専門医試験が開催されなかった。
 - ・試験の中止
 - ・単位が取れなくなった
 - ・症例登録での移動が困難になった
 - ・受験時期の変更

《キャリアについての考察》

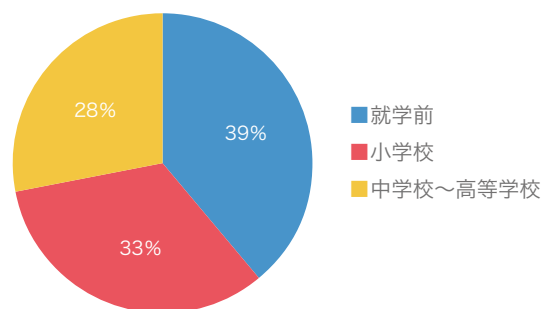
- ・キャリア形成のための活動の一つである学会参加について質問したところ学会参加状況は6割の医師が減少したと回答した。
- ・男女別ではどちらも減少したと回答した人が最も多かったが、女性ではむしろ増加したと回答した人は約3割を占めていた。
- ・年代別では50歳代以上が7割以上減少し1割が増加したと回答しているのに対し30歳・40歳代では増加したと回答した人が3割前後と他の年代の2倍占めていた。
- ・減少した背景は学会の中止と施設の出張制限、増えた要因はWeb開催により自宅でも学会参加ができたことであった。
- ・専門医取得や更新に関しては試験延期となった学会があり、影響を受けた医師がいる一方、学会のオンライン化で単位の取得がしやすくなっていた。

5. 0歳～18歳のお子さんがいらっしゃる方にお聞きいたします。

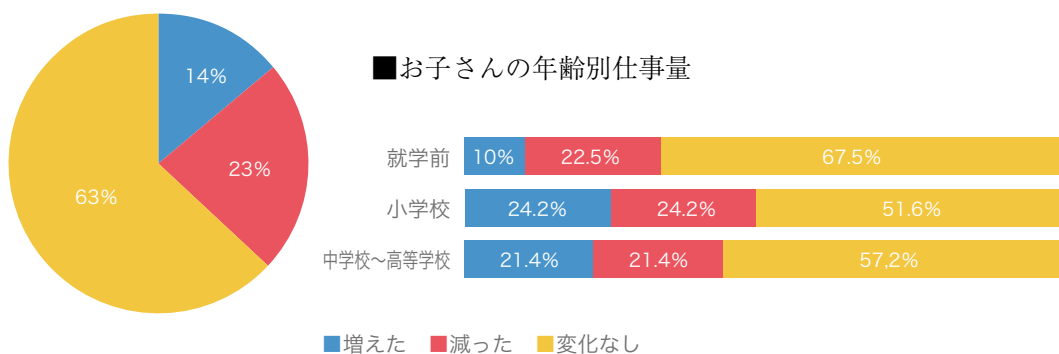
① お子さんの人数を教えてください。



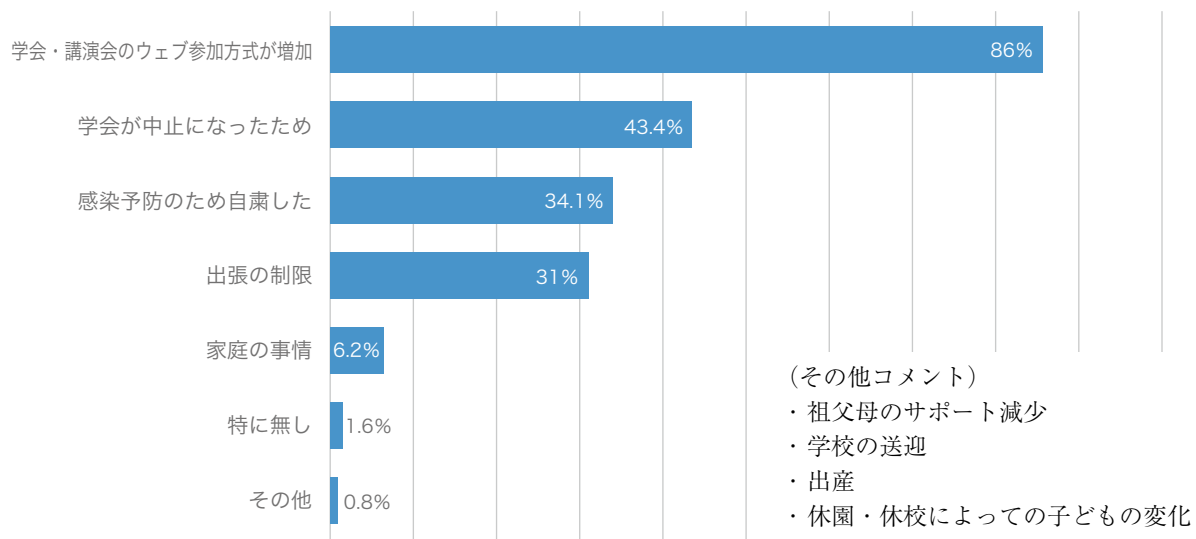
② お子さんの年齢に該当する項目を選んでください。(複数回答可)



③ 勤務時間に変化はありましたか



④ 仕事に影響を与えた項目を選んでください。(複数回答可)



《子育てについての考察》

- ・子育て中の医師に勤務時間の変化を質問したところ変わらないと回答した医師が最も多く6割超を占めていた。
- ・休園・休校、保育園の受け入れ変化が最も影響を与えていた因子と回答されており、勤務時間が減ったと回答した23%に以外にも勤務時間自体は変わらない医師であっても家庭での負担があったと考えられる。

《全体についての考察》

- ・新型コロナウイルス感染症対策下では感染症対策による業務の増加と従来の業務の減少によって仕事量の変化を感じる人は少なかった。
- ・業務内容の変化、会議や学会のWeb化が進み男女とも自宅での仕事や学会参加が可能になったこと。特に女性ではキャリア形成の活動が以前より増加した事が考えられ今後もWebの活用が広がることが期待される。
- ・業務内容の変化、会議や学会のWeb化が進み男女とも自宅での仕事や学会参加が可能になったこと。特に女性ではキャリア形成の活動が以前より増加した事が考えられ今後もWebの活用が広がることが期待される。

学生支援

◀ 学生・研修医・医師交流会 はまキャリ 2020 ▶

会 期	令和2年11月27日（金）
開催方法	オンライン
参 加 者	学生6名 医師6名

【概要】

「学生・医師交流会はまキャリ 2020」を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染防止のため初めてのオンライン開催で戸惑うこともありましたが、ご協力頂いた先生方のお蔭で何とか無事終了することが出来ました。

今回は1年生の参加が多く、想像できない家庭と仕事の両立に漠然とした不安を抱いている印象でした。しかし、どの先生方もざっくりばらんにご自身の経験をお話してくれたのでより具体的にイメージすることが出来たのではないのでしょうか。

交流会は直接会って話す方が盛り上がりますが、新しい様式を上手く活用して今後の活動に活かしていきたいと思います。

ご参加頂いた学生さん、ご協力頂いた先生方ありがとうございました。

学生・研修医・医師交流会
はまキャリ 2020
仕事と家庭の両立は大家？！
医師同士の結婚ってどう？
専門医を取ってからどう働く？
自分のキャリアスランをデザインしてみませんか？
先輩ドクターがお答えします！

日時 **11月27日（金）**
1部 14:00～14:30
2部 14:40～15:10
どちらかだけ、両方参加どちらもOKです

開催方法 オンライン
対象 医学生・研修医・医師
今年は初めてのオンライン開催です。
男性医師も参加します！

申込 締切: 11月20日（金）
担当: 南田
申込先: ネット申込みは右記のQRコードから申込みください。
メールでの申込みの方は下記のアドレスにご連絡ください。
E: dr-info@hama-med.ac.jp

主催: 浜松医科大学女性医師支援センター
ふじのくに女性医師支援センター

氏名・学年ご希望の参加形態（どちらか希望の部、または両方）をお知らせください。



◀ 交流会 ▶

会 期	令和3年3月9日（火）12：10～13：00
開催方法	ハイブリット（会場・オンライン）
参 加 者	学生5名（内1名はオンライン）、医師3名

1年生からのリクエストにお答えし、プチ交流会をセンターにて開催いたしました。

学生からは「キャリアを意識したのはいつか?」「どのような働き方があるのか?」「仕事と家庭を両立できるのか?」「両立に理解のある診療科をどのように見つければ良いのか?」等々、短い時間でしたが沢山質問を頂きました。

コメンテーターの先生からは「ライフイベントは予定通りにはいかない事なので、状況にある程度、身を任せながら柔軟に考えて行くことが大切」「育児で休職することはブランクではなく、医学とは違う貴重な経験をしていると考えてほしい」「医学以外の経験が増えることで患者さんの気持ちを理解し、寄り添ってあげられるので診療に役立つ」等、貴重なご意見を沢山頂きました。

近年、「働き方改革」や、「男女共同参画」という言葉が多く聞こえてくるようになり、学生も早い内から自分のライフイベントを視野に入れキャリアを意識するようになったと感じています。6年間の学生生活で考え方もどんどん状況に応じて変化していきますが、常に自分がどうありたいかを考えておくことはとても良いことだと思います。

コロナ禍で以前のような交流会の開催が難しくなってきましたが、直接話す中で得られることもありますので、今後は感染対策をしながら少人数で開催していきます。



◀ 学生講義 ▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は3回講義を行いました。

日 程	令和2年5月22日（金）
対 象	医学生2年生 116名
講 師	谷口千津子 「医学生のためのキャリア形成入門」
日 程	令和2年6月30日（火）
対 象	医学生6年生 114名
講 師	谷口千津子 「ライフイベントをプラスに変える！～働く側・支える側 それぞれのメリット」
日 程	令和2年10月21日（水）
対 象	医学生4年生 112名
講 師	安田日出夫（女性医師支援センター 副センター長） 「女性医師支援」の本質は何か 藤澤泰子（女性医師支援センター 運営委員） 「女性医師支援～ダイバーシティの視点から」

【アンケートより】

- ・これからはテストや実習のために勉強するだけでなく、医師としての人生設計についても考える必要があると思いました。
- ・両立がどうしても難しいし、この環境を改善しなければいけないと感じた。制度というよりは、各病院で柔軟に対応できるような体制が必要だと感じた。
- ・実際にこれから直面していく問題だったのでとても興味深かったです。女性医師として結構辛辣な意見もありましたが、現実だと受け止めて、打開策をもっと考える必要があるとかんじました。キャリアと子育ての難しさをとても感じましたが、先輩医師の実体験談を聞いて良かったです。



相談窓口の設置

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設時間	平日9時から17時まで

センターの活用

センターでは畳スペース・ソファースペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。



マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学
医 師	1 名

マタニティ白衣・パンツのご紹介

嬉しい工夫がいっぱいあります♡

マタニティ白衣の特色



規格（標準サイズとの比較）

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	95	97	38	53
マタニティS	90	112	38	51
M	100	101	39	55
マタニティM	95	116	39	51

※標準サイズは浜松医科大学の白衣サイズを掲載しています。

マタニティパンツの特色

規格

サイズ	ウエスト	ヒップ	太もも	股下
S	78	90	29	70
M	86	100	31	72
L	94	112	34	74



2枚1セットでレンタルいたします。
詳しくはホームページをご覧ください！

マタニティ白衣・パンツ
ご案内ページ➡



広報活動・情報発信

31

ホームページについて

【概要】

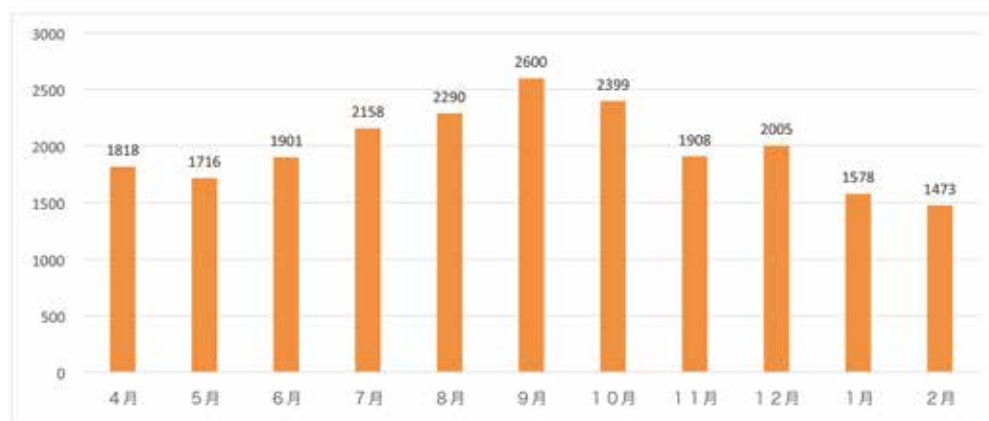
静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成30年2月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。

ふじのくに女性医師支援センターホームページ

<https://www.fujinokuni-w.jp/>



ホームページアクセス数



アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30 分以内の同一 IP を除いた訪問者数をカウントしています。

パンフレット配布

広く周知をするため、パンフレットを作成し県内医療施設と浜松医科大学各診療科及び卒業式・入学式、各イベントにて配布しています。



全国ダイバーシティネットワーク組織 東海北陸ブロック会議

現在、大阪大学を中心に女性研究者を取り巻く研究環境の整備や研究力向上に取り組む諸機関をつなぎ、国内外の取組動向の調査やその知見の全国的な普及・展開を図る活動を行っている全国ダイバーシティネットワークが組織されており、本学は東海・北陸ブロックに参画しています。この中でも附属病院を含む臨床現場をかかえる医学系大学は医療職の働き方改革の影響などもあって女性医師がキャリア形成と家庭生活の両立を図るワークライフバランスの支援と女性研究者支援にシフトしており、2021年1月から東海・北陸にある医系大学が連携して活動を開始しました。

会 期	令和3年1月19日 16:00～18:30 (Zoom 会議)
参加大学	9 大学
基調講演	「海外から学ぶ女性医師の働き方支援」 藤田医科大学保健衛生学部 米本倉基教授

講演後各地域での活動内容の紹介と意見交換をおこない、静岡県として「ふじのくに女性医師支援センター」の活動報告を行いました。

講演会・シンポジウム等の参加

令和2年12月4日

第2回「医師の働き方改革」に関する意見交換会

(令和2年度 勤務医委員会・ワークライフバランス WG 合同会議)

Web 会議

令和3年1月19日

全国ダイバーシティ「全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック第1回医学系大学会議」

Web 会議

34 アクセス・発行について



令和2年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月22日

発行 3月29日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 山内克哉

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子